

病態制御医学講座／精神医学分野
附属病院／神経科精神科

1. 領域構成教職員・在職期間

教授	和田 有司	平成11年10月－
准教授	東間 正人	平成24年4月－
講師	小俣 直人	平成13年4月－平成15年3月、平成17年4月－ (平成22年4月－現)
特命教授	小坂 浩隆	平成17年4月－平成24年1月、平成24年2月－ 子どものこころの発達研究センター所属 (平成26年12月－現)
助教	東 美江	平成22年4月－
助教	松村 由紀子	平成24年4月－
助教	水野 智之	H23年4月－H25年3月 H28年11月－
助教	田中 悠二	平成25年4月－
助教	上野 幹二	平成25年4月－平成25年7月、平成26年3月－ 平成28年10月
助教	岡崎 玲子	平成27年3月－

2. 研究概要

研究概要

精神疾患の生物学的基盤を明らかにし、その発症予防や早期介入、診断法の確立および治療のあらたな開発に寄与することを目標に研究をすすめている。研究の分野は、動物モデルを用いた基礎的研究から、各精神疾患を対象とした臨床研究までを広く網羅している。

1. 臨床神経生理（てんかん、臨床脳波や睡眠など）および神経精神薬理
- 1) てんかんや睡眠時無呼吸・ナルコレプシーの終夜ポリソムノグラフィーによる検討
- 2) オキシトシン投与による自閉症スペクトラム障害者の社会性向上に対する影響
- 3) 細胞内情報伝達系に注目した気分障害の病態解明とリチウムの神経保護作用
- 4) サイトカイン(TNF- α やアディポネクチン)やHPA系など精神薬理・内分泌学的検討
11. ヒト高次脳機能および精神神経疾患の形態・機能画像
- 1) 精神神経疾患（自閉症スペクトラム障害、統合失調症など）の脳形態・脳代謝機能
- 2) 感情を表出した表情認知や共同注視に関するfMRI研究
- 3) マルチスケールエントロピーを用いた精神疾患の認知機能や脳波特性に関する研究
- 4) マルチフラクタル非線形解析法による発達・加齢やMRI深部白質病変の定量評価
- 5) 神経心理学的アプローチによる認知機能の評価
- 6) ポジトロン標識化合物とラット新鮮脳切片を用いた脳代謝イメージング
(向精神薬の作用機序とその分子メカニズムの解明)
- 7) 生育環境や亜鉛など微量元素と情動との関係
- 8) 電気けいれん療法的作用メカニズムに関する研究
- Ⅲ. 老年精神医学・社会精神医学
- 1) 緩和ケアにおけるせん妄や慢性疼痛患者に対する最適な薬物療法の検討
- 2) がん患者のせん妄に関する精神薬理学的および心理社会的研究
- 3) 地域高齢者に対するメンタルヘルス健診と啓発活動
- 4) 認知症の早期介入に関する研究

キーワード

神経生理学, 児童精神医学, 老年精神医学, 精神薬理学, 社会精神医学

特色等

基礎的研究としては、実験小動物の新鮮脳切片や疾患モデル動物を用いた向精神薬の作用、疾患発症の機序に関する研究などを行っている。臨床研究としては、健常者の記憶や感情など高次脳機能の画像化、統合失調症や発達障害における認知機能異常の脳機能イメージングなどを進めている。さらに、脳波やMEGのデータ解析による統合失調症や加齢の非線形法を用いた研究、地域における認知症の予防研究、睡眠の臨床生理学的検討、緩和ケアにおけるせん妄や慢性疼痛患者に対する検討も併せて行っている。
以上、日常の診療を基盤として、また各研究領域間の連携を密にすることで精神疾患の統合的アプローチを目指している。

本学の理念との関係

学内の高エネルギー医学研究センター、子どものこころの発達研究センター、放射線医学、検査部などとの連携の中で、機能画像と分子生物学、さらに精神薬理や神経生理学的なアプローチを駆使して、先駆的な脳とこころの研究を展開している。学外では、県内外の研究機関との共同研究をすすめている。

3. 研究実績

区分		編数	インパクトファクター（うち原著のみ）
		2016年分	2016年分
和文原著論文	ファーストオーサー	0	—
	コレスポンディングオーサー	3	11.538 (11.538)
英文論文	コレスポンディングオーサー	3	11.538 (11.538)
	その他	2	3.973 (1.785)
合計		5	15.511 (13.323)

(A) 著書・論文等

(1) 英文：著書等

a. 著書

b. 著書（分担執筆）

c. 編集・編集・監修

(2) 英文：論文等

a. 原著論文（審査有）

1632001

T. Goto, M. Kato, Y. Matsumura, N. Omata, M. Yoshida, K. Watanabe, T. Takahashi, M. Higashima, Y. Wada: Scopolamine Ointment for Clozapine-Associated Sialorrhea A Case Report, JOURNAL OF CLINICAL PSYCHOPHARMACOLOGY, 37(1), 106-107, 201702（症例報告）, #3

1632002

T. Goto, M. Ishitobi, T. Takahashi, M. Higashima, Y. Wada: Reversible Splenial Lesion Related to Acute Lithium Intoxication in a Bipolar Patient: A Case Report., Journal of clinical psychopharmacology, 36(5), 528-529, 201610, DOI: 10.1097/JCP.0000000000000544（症例報告）, #3

1632003

H. Kosaka, Y. Okamoto, T. Munesue, H. Yamasue, K. Inohara, T. Fujioka, T. Anme, M. Orisaka, M. Ishitobi, M. Jung, TX. Fujisawa, S. Tanaka, S. Arai, M. Asano, DN. Saito, N. Sadato, A. Tomoda, M. Omori, M. Sato, H. Okazawa, H. Higashida, Y. Wada: Oxytocin efficacy is modulated by dosage and oxytocin receptor genotype in young adults with high-functioning autism: a 24-week randomized clinical trial, Transl Psychiatry, 6(8), , 201608, #5.538

1632004

S. Arai, Y. Okamoto, T. Fujioka, K. Inohara, M. Ishitobi, Y. Matsumura, M. Jung, K. Kawamura, S. Takiguchi, A. Tomoda, Y. Wada, M. Hiratani, N. Matsuura, H. Kosaka: Altered frontal pole development affects self-generated spatial working memory in ADHD, Brain Dev., 38(5), 471-480, 201605, #1.785

b. 原著論文（審査無）

c. 原著論文（総説）

1632005

Y. Okamoto, M. Ishitobi, Y. Wada, H. Kosaka (Corresponding Author): The potential of nasal oxytocin administration for remediation of autism spectrum disorders., CNS Neurol Disord Drug Targets, 15(5), 564-577, 2016, DOI: 10.2174/1871527315666160413120845, #2.188

d. その他研究等実績（報告書を含む）

e. 国際会議論文

(3) 和文：著書等

a. 著書

b. 著書（分担執筆）

c. 編集・編集・監修

(4) 和文：論文等

a. 原著論文（審査有）

b. 原著論文（審査無）

c. 総説

d. その他研究等実績（報告書を含む）

e. 国際会議論文

(B) 学会発表等

(1) 国際学会

a. 招待・特別講演等

b. シンポジスト・パネリスト等

c. 一般講演（口演）

d. 一般講演（ポスター）

1632006

H.Maeda, T.Goi, A.Yamaguchi, I.Hata,Y.Wada, M.Yoneda: Genetic Counseling for Hereditary Breast and Ovarian Cancer Syndrome in our hospital, The 13th International Congress of Human Genetics(ICHG2016), , Kyoto,Japan, 201604, オンライン, ,

e. 一般講演

f. その他

(2) 国内学会（全国レベル）

a. 招待・特別講演等

b. シンポジスト・パネリスト等

c. 一般講演（口演）

d. 一般講演（ポスター）

1632007

田中悠二、東間正人、上野幹二、高橋哲也、大森晶夫、川口めぐみ、高森巳早都、水上喜美子、和田有司：健常高齢者における非記憶領域の軽微な認知機能低下と脳白質体積の減少の関連性，第31回日本老年精神医学会，，金沢市，201606，，，

e. 一般講演

f. その他

(3) 国内学会（地方レベル）

a. 招待・特別講演等

1632008

東間正人：てんかんという病気と一生つきあっていくための心構え，第9回日本てんかん学会東海北陸地方会，，福井市，20160709，，，

b. シンポジスト・パネリスト等

c. 一般講演（口演）

1632009

佐野友香、上野幹二、松村由紀子、東間正人、和田有司：思春期神経性無食欲症の過活動に対し少量のアリピプラドールが奏功した1例，第190回北陸精神神経学会，，富山市，201607，，，

1632010

松本日和、武藤悠平、岡崎玲子、田中悠二、松村由紀子、東間正人、和田有司：精神疾患との鑑別に苦慮した非けいれん性発作重積の2症例，第9回日本てんかん学会東海北陸地方会，，福井市，201607，，，

1632011

久保賢太郎、片山寛人、林 浩嗣、松村由紀子、小坂浩隆、東間正人、和田有司：多彩な精神病症状を呈したウィルソン病の1例，第191回北陸精神神経学会，，金沢市，201701，，，

1632012

岡崎玲子、高橋哲也、川谷正男、平谷美智夫、東間正人、和田有司：小児ASDとAD/HDの背景脳波活動ーネットワーク解析による比較検討ー，第191回北陸精神神経学会，，金沢市，201701，，，

d. 一般講演（ポスター）

e. 一般講演

f. その他

(4) その他の研究会・集会

a. 招待・特別講演等

b. シンポジスト・パネリスト等

c. 一般講演（口演）

1632013

岡崎玲子、高橋哲也、栗田智未、前川伸晃、和田有司：医学生における気質の変遷—UPIの推移による検討—，第54回全国大学保健管理研究集会，大阪市，201610，，，

d. 一般講演（ポスター）

e. 一般講演

f. その他

(G) 特許等

区分	内容（発明の名称）	発明者又は考案者
----	-----------	----------

(D) その他業績

4. グラント取得

(A) 科研費・研究助成金等

区分	プロジェクト名	研究課題名	代表者名	分担者名	期間（年度）	金額（配分額）
区分	研究種目	課題名	代表者名	分担者名	期間（年度）	金額（配分額）
文部科学省科学研究費補助金	基盤研究(C)（一般）	社会的孤立の負荷期間延長は、うつ状態の増悪ではなく、躁状態を引き起こすか？	小俣 直人	清野 泰	2016	1820000
文部科学省科学研究費補助金	基盤研究(C)（一般）	医学的評価に基づく自閉症児のきょうだい支援システムの構築	川谷 正男	高橋 哲也	2016	200000
文部科学省科学研究費補助金	若手研究(B)	ADHD児と自閉症児の前頭葉機能特性および薬物と療育効果による変化	松村 由紀子		2016	1300000
文部科学省科学研究費補助金	基盤研究(C)（一般）	精神疾患と創造性：神経ネットワーク理論に基づく神経基盤の解明	上野 幹二	高橋 哲也，水上 喜美子，山西 輝也	2016	1300000
文部科学省科学研究費補助金	基盤研究(C)（一般）	神経ネットワークに着目した電気けいれん療法的作用機序の解明-脳波の非線形解析-	岡崎 玲子	上野 幹二，高橋 哲也	2016	650000

(B) 奨学寄附金

受入件数	23
受入金額	11540000

5. その他の研究関連活動

(A) 学会開催等

区分	主催・共催の別	学会名	開催日	開催地
----	---------	-----	-----	-----

(B) 学会の業績

学会の名称	役職	氏名
日本てんかん学会	評議員（評議員）	和田 有司
日本生物学的精神医学会	評議員（評議員）	和田 有司
日本臨床精神薬理学会	評議員（評議員）	和田 有司
日本老年精神医学会	評議員（評議員）	和田 有司

(C) 座長

国内学会	学会名	氏名
一般講演（口演）	第31回日本老年精神医学会	和田 有司

(D) 学術雑誌等の編集

学術雑誌等の名称	委員長（主査）・委員	氏名
----------	------------	----

(E) その他

1632014	小俣 直人:おかえりホームドクター（福井テレビ），うつ病について，20160912
1632015	高橋 哲也:人口知能で自閉症診断（読売），20160415
1632016	松村 由紀子:“元気で医こう”せん妄をご存じですか（日刊県民福井），20160719
1632017	田中 悠二:元気パンザイ（福井街角放送局），認知症について，20160914